

豊崎町

歴史・文化 案内マップ

このリーフレットは、「地域の底力」プロジェクト補助金を活用して作成しています。

1 七崎神社拝殿

ならさきじんじやはいでん

南部四条中納言藤原諸江の卿が流刑となり、白銀村に上陸、漁夫をしていた。天長元年(824)のある日、網に金色を放つ霊体を得、小社を建てて祀った。承和元年(834)、霊夢によりこの地に正観音菩薩として奉斎、七崎山徳楽寺とした。明治初年の神仏分離により、七崎神社となった。

2 大杉

おお すぎ

境内にある市文化財(天然記念物)指定の巨杉3本のうちの1本。樹齢800年～1000年。承安元年(1171)に普賢院を開基した行海和尚が、七つ星の形に植えたと伝えられている。

3 補任状

ぶにんじょう

七崎山徳楽寺(現七崎神社)には江戸時代、修験者といわれる人がいた。特別な霊力を持ち、加持祈祷を行い住民生活と深く関わっていた。補任状とは修験者の担当地域を認証したものである。これは安政6年(1859年)のものである。

4 ほこ杉(矛杉)

ほこ すぎ

市文化財指定の巨杉の3本のうちの1本。樹齢800～1000年。樹形が武器の矛(ほこ)のようである。

5 奉納相撲大会土俵

ほうのう すもう たいかい どひょう

昭和40年代までは9月の例祭に奉納相撲及び演芸会が行われ、近隣から大勢の若者が集まって力を競った。夜店も軒を連ね、参詣や相撲観戦の老若男女で深夜まで賑わった。現在は町内の小中学生の大会が行われている。

6 八太郎の唸り石

はったろう うな いし

藤原諸江卿の娘、七崎姫は八太郎沼の大蛇を懲らしめた後も悪さをしていないかと毎年見に行っていた。娘の没後、村人たちが行列をつくって行ったが、そのうち行かなくなった。あくる日村人が行くと「うーん、うーん」という石があり神社に運んだ。すると唸らなくなった。

7 杉の巨木と神輿殿

すぎ きょぼく みこしでん

巨杉の1本。根の隆起が美事で他に類をみない。神輿殿には明和(1764～1771)の年号のある神輿が納められている。かつて神輿行列を作って八太郎まで行ったと伝えられている。

8 南祖法師修行の地

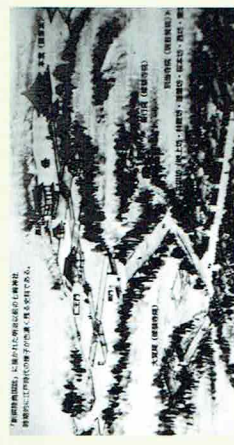
なんそほほうしゅうぎょう ち

南祖坊は貞観時代(859～876)に南部町の斗賀神社で出生。7歳の頃から10年ほど永福寺(現普賢院)の月体和尚に学問を教わった。宝照山普賢院は継部三十三観音十五番札所である。

9 七崎山徳楽寺

ならさきさん とくらくじ

834年開創。江戸時代には修験者たちの拠点であった。これは「新陸奥国誌」明治5年(1872)刊に掲載されているもの。今は七崎神社となったが杉木立や石段に往時を思ふことができる。





10 蒼前神社

家畜を守る神様。蒼前様とも呼ばれる。南祖坊の父である藤原是之(後に宗善と名のる)は馬を見る目が優れ、人々から尊敬されていた。没後、馬の守護神として、祀られた。



11 明治天皇巡幸記念碑

明治14年、天皇が八戸から五戸へ行く途次、休憩された地。役家から西へ向かう七崎坂(旧道)を上ったところにある。この坂は五戸、川内方面への幹線道路であった。



12 役家跡

役家とは江戸時代の五戸代官所の出先機関。七崎坂を通っての村の出入りには、ここの押印(通行手形)が必要であった。



13 七崎屋半兵衛生家跡

八戸南部藩の経済的窮乏を援助した八戸の豪商七崎屋半兵衛(松橋半兵衛)は当地の出身である。



14 滝谷天満宮

七崎神社を出立し、霊場十和田神社へ向かう者が立ち寄ったと伝えられている。



15 気比神社

気比神社は蒼前様ともいわれ、家畜を守る神様を奉る神社である。



16 八戸市農村環境改善センター 瑞豊館

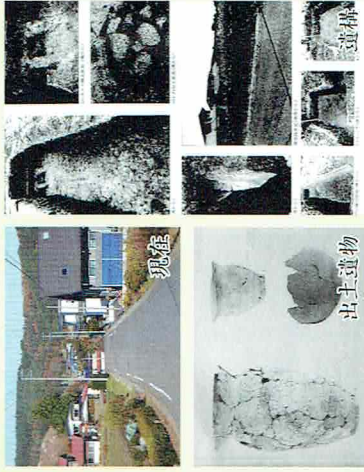
昭和56年(1981)、新しい農村づくり推進事業の一環として建てられた。大小会議室、調理室、軽スポーツのできる多目的ホール、プール等がある。地域住民に気軽に利用され、地域活動の情報発信基地でもある。この「豊崎の歴史・文化再発見!」の活動記録も保管され、閲覧できる。なお南祖坊が修行した豊崎町には「南宗坊」という字名の地があり、南祖坊を祀った小祠がある。その他、豊崎出身のスポンズの歴史文化として、駅伝の駅伝を走った選手や、いわれた青森・東京間の駅伝を走った選手や、ロシアのソチで開催された冬季オリンピック女子アイスホッケー日本代表に選ばれた選手、レスリングでロシアに遠征した選手の記録を保存している。

豊崎の歴史・文化再発見!



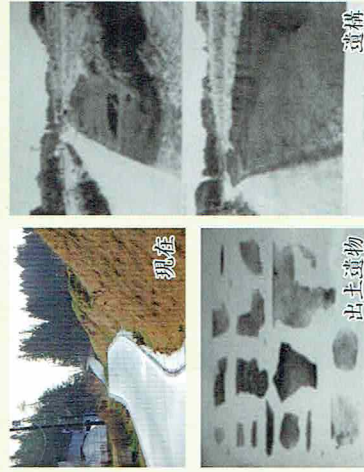
17 咽平遺跡第1地点

農道の拡幅工事のとき、土壘や溝状ピットが発見された。遺物は、土器、石器、土偶、棒状土製品、円盤状土製品、泥面子等で縄文時代後期初頭から前葉のもの。この周辺には、住居跡が存在する可能性もある。



18 咽平遺跡第2地点

平成25年に個人住宅建築の際に発見された。検出遺物は堅穴住居跡1棟、溝状土壘1基。出土遺物としては、土師器環、土師器、鉄製品等がある。



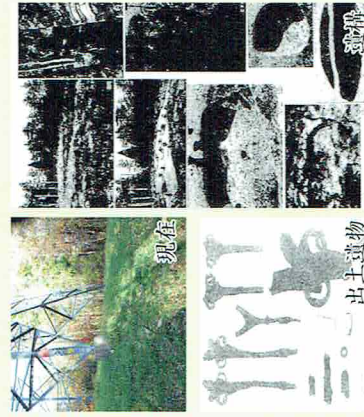
19 咽平遺跡第3地点

平成25年の道路改良工事の時に、遺構、遺物が発見された。堅穴住居跡や縄文土器、土師器が出土したことから、縄文時代後期と思われる。



20 境沢頭遺跡第1・2地点

平成8年度、西八戸鉄塔建設に関わる発掘調査実施で発見された平安時代の鍛冶、建物である。この時代における鍛冶に関連した集落が営まれていたことがわかり、古代における山間部での生活のあり方を知る貴重な遺跡である。調査した第1地点と第2地点とは400メートルしか離れておらず平安時代の鍛冶関連遺構が多く存在すると考えられている。



21 上七崎遺跡

送電線鉄塔工事の際に埋蔵文化財包蔵地にあたるので、平成6年9月に発掘調査を行った。遺構は堅穴住居2棟、土壘7基、溝状ピット1基である。出土遺物としては、土師器甕、杖頭状鉄製品等があり、平安時代のものであると思われる。

【発行】
豊崎の歴史・文化再発見!
【お問い合わせ】
瑞豊館 TEL 0178-23-2618

遺構・出土遺物の写真は八戸市教育委員会資料による。